

ぼだい樹号

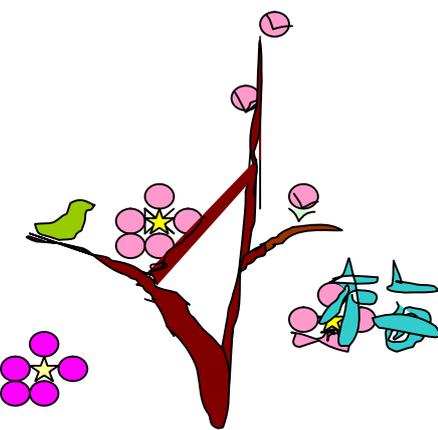
2001/2/3

一月二十日大寒 午後から降り出した雪は

夜まで降り積もり、大変な交通渋滞の中で、甚目寺観音の法花院様が全焼すると言う大災難が有り、同じ智山派のお寺として心痛む事態です。翌日のテレビが大きく報道していました。御家族が皆無事で有った事が不幸中の幸いでした。宝寿院も火の用心を心がけています。初弘法の二十一日は雪かきから始まりました。庫裏から本堂までさえ、一時間もかかり、本当に大変でどうしようかと思案にくれていると、お助けマンの市川氏が来て下さいました。地獄で佛と出会った様に思いました。十時までに綺麗になり参詣の皆様にも喜んでもらえました。おかげさまで午後は、観音様へお見舞いに行く事が出来ました。胸がつぶれる思いで、立ち尽くしてしまいました。再建が一日も早く始まりますようにと、真剣に祈りました。

宝寿院歳時記

冬の朝は夜明けと共にチュクチュクちゅんちゅんとスズメ達の、朝の打ち合わせ会から始まります。会場は本堂の大屋根です。昔の記憶では、もっと可愛い声だった様に



思いますが、現代っ子のスズメはとても、やかましく自己主張をしています。三十分ぐらいでミーティングは終わります。最近では鶯が本堂の上を悠々と飛び、カラスが又元気を出しています。庭の葉牡丹も水仙もやがて咲き出す紅梅白梅を待っています。二月一日に一輪咲いて、春を告げています。豆まきには埼玉のお客様がお越しになり、華を添えて下さいますので、好天に恵まれます様にと、念じています。三月二十日春分の日には、枝垂れ桜もほころびてきます。一度お出かけ下さい。弘法大師御影供は、写経を一日しています。身も心もすっきりとします。是非挑戦して下さい。併せて宝物展も開催します。甘酒やお菓子の接待が有りますので、お子様達とお出かけ下さい。

運勢・家相相談は予約です。

・ Fax 0567・25・4154

496-0851 愛知県津島市神明町 2

涅槃会

二月十五日

お釈迦様が沢山の弟子達に看取られてクシナガラの沙羅の花が咲き乱れる中で静かに涅槃に入られた日です。川の流れも一瞬止まってしまふような静寂が立ち込めていました。日が落ち夜のしじまの中で、涅槃に向かわれ八十歳の生涯を閉じました。これより数日前、お釈迦様はチュンダから干豚肉の供養を受けます。これを食して、赤痢のような病気になれたことが、教典にも血が走ったと書かれています。それでも布教の旅を続けられ、クシナガラに至ります。とても寂しいところです。お釈迦様は死を予告し、二本の沙羅の木の間で床を取り、休まれようとします。其処に最後の弟子ブツクサが現れ、金色の布を布施します。布を着けたお釈迦様は、金色に光り輝きました。生涯で二度、成道の時と、涅槃の時に、**仏陀は二度金色となると**、御自身でいわれました。仏像を金色にするのは、この伝承に由来します。涅槃とは、煩惱を吹き消すことだそうです。我執から離れて、解脱するとも云います。文章にすると、一言ですが、なかなか難しい事ですね。煩惱の塵に包れた人間にとって、お釈迦様は、とても尊い存在です。